

大阪「土佐稲荷神社」

先に紹介した『大阪の橋』によると、江戸時代、西横堀川と長堀川の沿岸には各種の産業が発達していた。炭屋橋は炭屋町という町名に由来するが、かつて炭屋の多いところであった。これは西長堀川沿いには銅精錬所があったことから炭が必要とされたためである。---- 川筋には宇和島藩や土佐藩の蔵屋敷があつたこともあり、土佐を始めとする西日本各地の材木が集まり、その取引は非常に活況を呈していたという。

大阪「四つ橋」から西に歩くと、「土佐稲荷神社」に着く。広い境内に大きな鳥居が並ぶ。神社をすこし歩いてみた。

案内が写真下のように書かれていた。

「土佐稲荷神社は土佐高知藩蔵屋敷の鎮守社として屋敷内にあった。伏見稲荷の分霊を祀り、町人の参拝も許され「土佐稲荷の夜桜」は古くから有名である。境内には嘉永四年（1851）建立の其角の句がある。廃藩置県で岩崎家の民有地となり三菱の諸事業の中心をなした。付近に岩崎家邸跡がある」



土佐稲荷神社の由緒によると「当社の創建は古く、天正年間（安土桃山時代）、大阪城の築城に際し、運搬されていた石に只ならぬ畏きものがあり、これをお祀りしたのが始まりとされる。爾来その靈験あらたかなることが各地に広がり、航海安全の神として遠く西国などより多くの参拝者があつたと記録にある。享保二年、六代目土佐藩主山内豊隆は、伏見稲荷大社より御分霊を戴き合祀した後、土佐稲荷神社と称するようになった。



三菱の創始者、岩崎彌太郎は此の地で会社を興した事で知られているが、特に日頃より当社を篤く敬い、繁栄の守護神とした」

ここは若者に人気の堀江の4丁目だ。大阪市立中央図書館を朝一番で利用するために、土佐稲荷神社に立ち寄った。この界隈が三菱と関係があることなどを学んだ。

(2016年2月27日)